

修正点： 現行の読み取り可能幅を維持して割り当て桁数の変更。由来記号番号を2桁に、基本数値を5桁に。00001から99999

試料番号=親記号番号 CODE39 15桁

短縮バーコード化 → 検索番号 JAN8 7桁+CD1桁=8桁

通し番号 JP03UTHT1000001

1000001+O

乱数 JP03UTHT1057690

追加情報記号番号の挿入位置

1057690+O

英字は大文字のみ+一部の記号

→

数字のみ

	国記号番号	県記号番号	種名記号番号	由来記号番号	付加記号番号	基本数値	チェックデジット(CD)
通し番号	JP	03	UT	HA	10	00001	JAN8の自動計算値
乱数	JP	03	UT	HA	10	57690	
桁数	2	2	2	2	2	5	1

国識別

エリア(県)識別

種名識別

試料由来識別

任意の補助記号番号

乱数など

JAN8に短縮した場合、

JPのほか

岩手は03

UT: Ursus tibetanus

HA:体毛

指定しない場合は00

アルファベットも

検索番号7桁にチェック

45, 49など

HK: HoKkaido

CN: Cervus Nippon

(HT:ヘアートラップ)

例: 2010年度の10

使用可能だが

デジットが自動的に

IW: Iwate

MF: Macaca Fuscata

MS:筋肉

英文字・数字2桁で表現

検索バーコード

1桁を加わって8桁化

HR: HiRoshima

SS: Sus Scrofa

OM:口腔内粘膜

00~ZZ

の規格も考慮

JAN13であれば桁数が

SI: Saltama

など、イニシアル又は

DN:葉

・試料識別記号補足

ここでは数字のみ

CD+12桁

英数字2桁の組合せ

BN:骨

・地域細分化記号

のJAN8

特定動物は固定?

FC:糞

・年度区分など

00001から99999

外来種希少種にも割当

RM:餌残さ

由来記号番号と付加

IO:内蔵

記号番号の組合対照表

BL:血液

の公開義務

SG:他痕跡

TX: はく製

UK:不明

英数字2桁の組合せ

英文字を含む場合、

で表現できること

数列に代えてJAN8に

体毛の直接採取とヘア

変換

トラップを区別する場合

例: AB57690の場合

はHTとするか

ABを国番号(49)、県番

号(03)、H10年度は10

4957690

0357690

1057690

などとできるが、任意可

補足

○別紙説明にCODE39を16桁と記載した理由は、バーコード印刷用紙幅と、読み取り機に判別できる幅の現場の利便のため、CODE39規格自体に桁数制限があるわけではない。

○今後、分析の利便性や、サンプルの分散、供与など上記桁数で表現できない事態が発生した場合、由来記号番号と付加記号番号の間に2-6桁単位で追加情報記号番号を順次挿入する。これと親番号、検索番号相互間の対応を維持する。

○桁数を順次増やした場合でも、その記号番号をCODE39に変換できるが細かすぎてバーコードとしての用をなさないの、試料番号としてのみ扱い、別途検索番号と関連付けて運用する。

○CODE39も2桁のCDを付加できるが冗長化するので省略した。

解説例

JAN8

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~bar/spec/explain2.html>

CODE39

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~bar/spec/explain4.html>

